

令和4年度 学校評価アンケート集計結果分析・考察

1 回収率

表1 令和4年度の全体の回収率

	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
生徒	94.7%	96.5%	97.3%	96.3%	99.9%
保護者	83.0%	78.5%	82.9%	85.0%	96.9%

表2 学年ごとの回収率

	全体集計			1年			2年			3年		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
生徒	100	79.5	94.7	100	92.5	95.6	100	87.5	96.5	100	79.5	92.0
保護者	97.5	69.2	83.0	95.0	75.0	86.1	100	91.7	84.0	92.3	69.2	78.9

本校は平成21年4月、仙台商業高等学校と仙台女子商業高等学校が統合、新しく仙台市立仙台商業高等学校として開校し、14年が経過しようとしている。今回の分析結果が現在の「仙台市立仙台商業高等学校」を考えていく上で基本的なものになるととらえて今年度の分析を進めていきたい。

なお、回答総数は、生徒891（男子363、女子528）、保護者781（男子生徒の保護者304、女子生徒の保護者477）である。

2 集計方法

設問内容については、12年前から生徒用のものに、「ボランティア活動への参加」に関する質問項目を追加している。なお、男女共学にとまなう変化についても読み取れるよう配慮した。

生徒用は設問1から18までの項目、保護者用は1から17までの項目に対してA・B・C・D・無回答の順に回答数とその回答率（%）を集計し、さらに100%積み上げ横棒形式のグラフに置き換えて集計表示した。

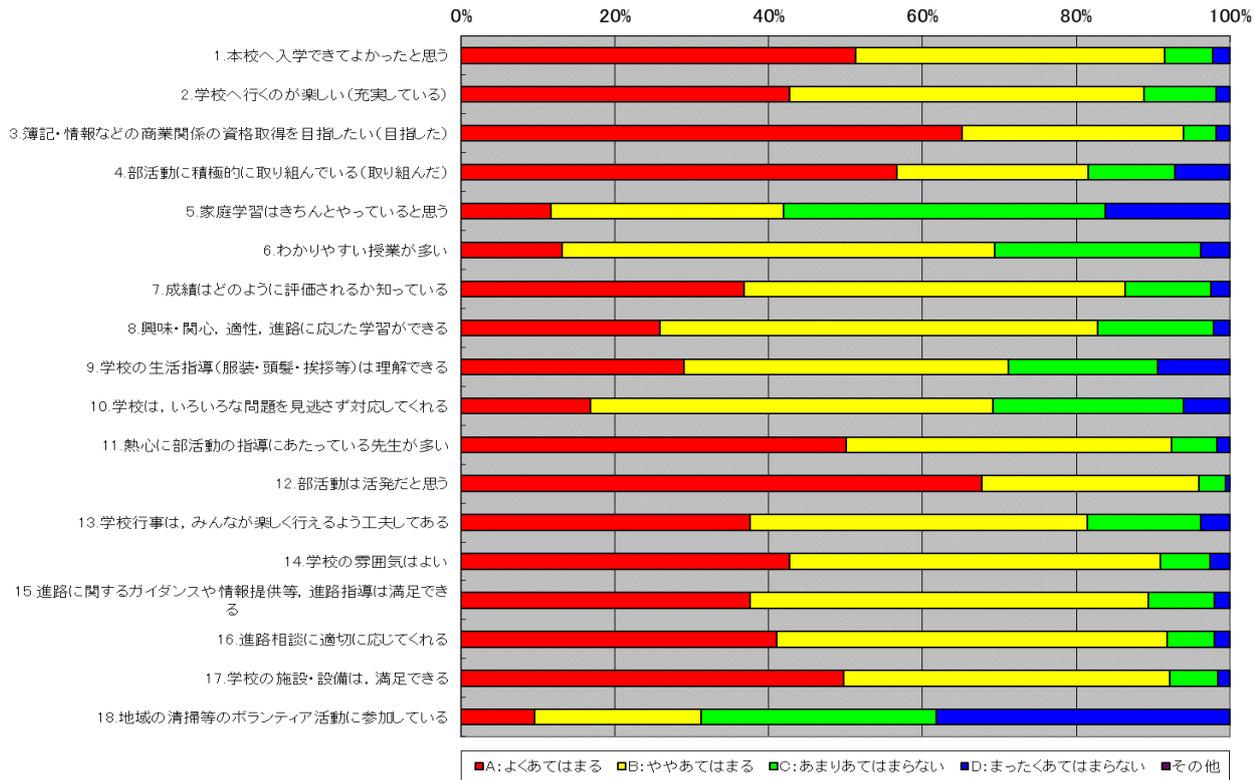
設問の最後には自由記述欄を設けて、設問項目に対する意見や項目以外に対する提言及び感想を記入してもらっている。

- (1) 横棒表示は生徒毎、保護者毎、教員毎に作成。
- (2) 回答内容と回答数は全体、学年別に作成。
- (3) 自由記述欄は、記述された文言を忠実に羅列集計。

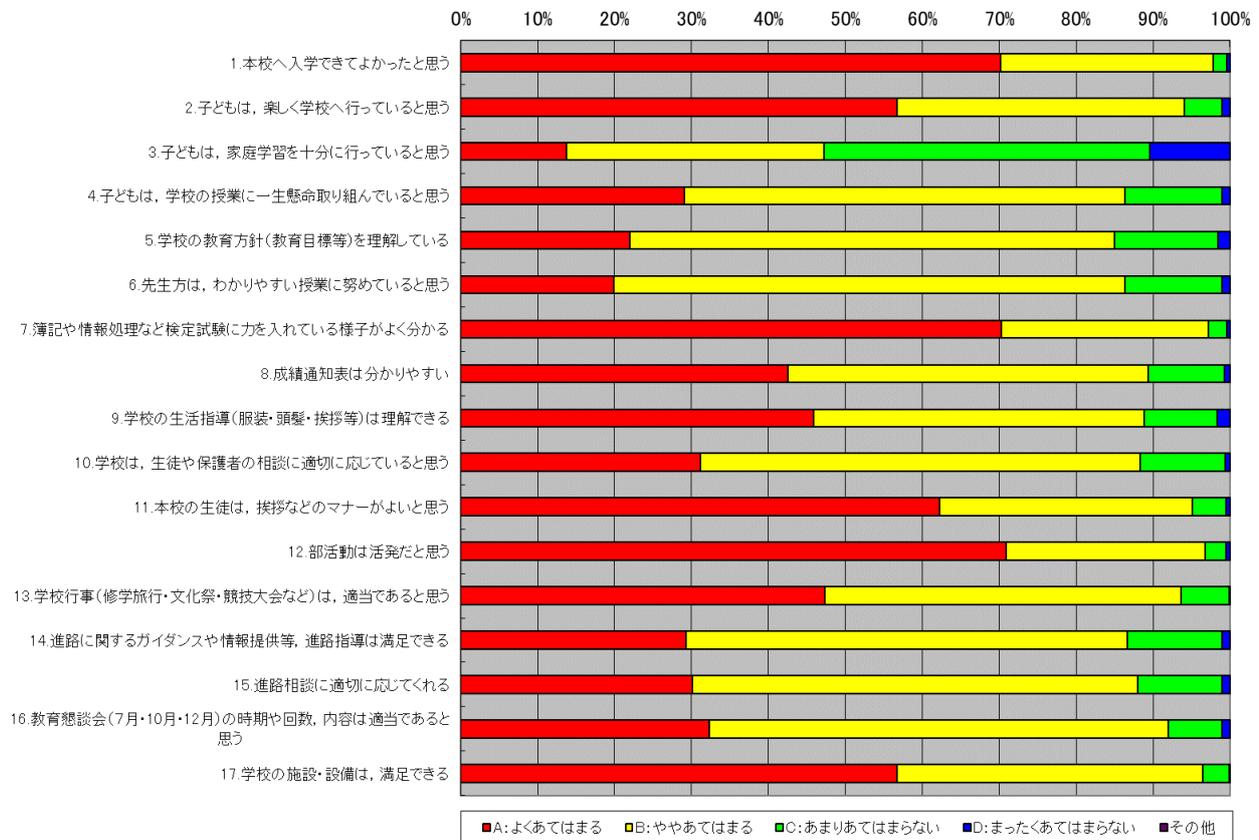
3 公表範囲

- (1) 仙台市教育委員会に概要を報告
- (2) 保護者に概要を配布
- (3) 学校運営協議会に概要を提示
- (4) 学校のホームページに概要を掲載・公表

令和4年度 学校評価アンケート（生徒対象）



令和4年度 学校評価アンケート（保護者対象）



【分析・考察】

1 学校に対する全体的な印象

2 ページの図を昨年度のものと比較すると、今年は生徒の「よくあてはまる」「ややあてはまる」がすべての項目で減少し、保護者の「よくあてはまる」「ややあてはまる」は17項目中5項目の増加に留まった。今年度はコロナウイルス感染症のため、抑制されていた様々な行事が創意工夫されながら実施できたことで、「学校行事は適当である」という設問が上昇した。

「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では90%を超えるものの、1年生全体が93.0%、2年生が87.4%、3年生が94.1%で、昨年よりも減少するという評価になっている。多くの生徒が満足感を感じながら登校してきてはいるが、これからの教育活動を考えていく必要があるといえる。

保護者からは昨年度同様97%以上が「入学できてよかった」という回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」とする項目に関しては昨年度までと比較すると、横ばい傾向が見られる。生徒は1年生が最も高く(95.2%)、2年生(93.1%)、3年生(93.9%)となっているが、保護者は学年に関係なく90%を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示している。一昨年、昨年からの経験を活かし、コロナウイルス感染症対策を講じながら、あらゆる教育活動において工夫をし、条件付きではあるが諸行事を行うことができた。

2 目的意識

「簿記・情報などの商業関係の資格取得を目指したい(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で93.9%(昨年度より-1.9ポイント)となった。内訳は、1年生が96.1%(昨年度より-1.0ポイント)、2年生が95.1%(昨年度より+0.2ポイント)、3年生が90.7%(昨年度より-4.6ポイント)となった。どの学年も90%を超える結果となった。1年生・2年生は、「在学中により多くの資格を取り、進路等に活かしてゆく。」という学校の目標を理解しながらも、積極的に取り組んでいく意識が薄いように感じられる。向上心を持ち資格取得ができるように指導をしていく必要がある。その反面、現3年生は、昨年の2年次の時も「資格を取っておきたい。」という意識が高かった。そのことが、いま現在も継続していると考えられる。その結果、本校商業科の掲げている「全商1級3種目以上の合格者を100名以上」という数値目標を現時点で達成をし、200名以上を輩出する勢いに繋がっている。他学年にも波及効果を生むように資格取得の必要性と取得に対する意欲の喚起に努めていかなければならないと考える。

「部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んだ)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で81.6%(昨年度より-4.9ポイント)となった。部活動は、学校を活気づける一つの要因になると考えられるので、コロナ禍という厳しい現状をかんがみても、数値が減少したことは残念なことである。内訳を見てみると、1年生が84.8%(昨年度より-4.4ポイント)、2年生が77.4%(昨年度より-5.1ポイント)、3年生が82.6%(昨年度より-5.3ポイント)となり、全体的な減少傾向と学年間での差が生じる結果となった。コロナ禍が昨年度から部活動の取り組みにいまだに大きく影響を及ぼしていることを感じた。

保護者において、「簿記や情報処理などの検定試験に力を入れている様子がよく分かる。」

の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 96.8%（昨年度より -0.2 ポイント）となった。内訳は、1 年生が 95.8%（昨年度より +1.9 ポイント）、2 年生が 96.4%（昨年度より -0.5 ポイント）、3 年生が 98.3%（昨年度より +2.3 ポイント）となった。どの学年も、95%以上を超える結果となった。その中で、現 3 年生は、昨年の 2 年次の時と同様に生徒・保護者とも高い数値が残され、同じような意識であることが示された。

「部活動は活発だと思う」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 96.8%（昨年度 -0.7 ポイント）になった。内訳は、1 年生が 98.1%（昨年度より +1.2 ポイント）、2 年生が 95.8%（昨年度より -1.0 ポイント）、3 年生が 96.3%（昨年度より -2.4 ポイント）となった。この項目も 95%以上を超える結果とはなったが、各学年でポイントが減少したことは残念である。生徒・保護者とも「商業関係の資格取得」に関しては、学校が目指す方向性を理解したうえで同じ方向に向かっていていると考えられた。しかし、「部活動にも積極的に取り組んでいく」ということに関しては、学校の方向性とズレを感じさせられる結果となった。

今後は、厳しいコロナ禍の中ではあるが、学校の方針を明確に打ち出しながら、魅力ある学校生活の一端となるように工夫を凝らし情報発信をしていく必要があると考える。

3 学習意欲

「家庭学習はきちんとやっている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 42.0%（昨年度から -4.0 ポイント）となった。内訳は 1 年生が 37.5%（昨年度より -10.3 ポイント）、2 年生が 43.2%（昨年度より +1.8 ポイント）、3 年生が 45.5%（昨年度より -3.5 ポイント）となった。1・3 年生は減少となり、特に 1 年生の大幅な減少が見られた。2 年生は、昨年度より 1.8 ポイントの上昇となった。みやぎ学力状況調査の結果（1・2 年生）においても、家庭学習についての回答は、「宿題・課題のあるときと定期考査前」もしくは、「定期考査前」の回答が上位を占めた。また、家庭学習をする上での悩みについての回答は、「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」であり、日常生活の中で、「部活動と家庭学習の両立を目指しているが家庭学習に集中できない生徒」が多く存在することが浮き彫りになっている。

保護者において、「子どもは家庭学習を十分に行っている」の項目に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 47.2%（昨年度より -7.3 ポイント）となった。内訳は、1 年生が 46.4%（昨年度より -8.6 ポイント）、2 年生が 46.2%（昨年度より -4.0 ポイント）、3 年生が 49.4%（昨年度より -9.0 ポイント）となった。生徒と保護者の間にポイントの多少のひらきが見られたが、学年の分析傾向は同じようなものとなった。保護者の視点において、1 年生男子の 33.3%という結果は、学校側も注意すべきであり、何らかの対策が必要である。目的意識での「資格取得を目指している・目指した」との回答と密接につながり、どの学年においても資格取得を目指すには、家庭学習が不可欠であると同時に、学習習慣や基礎学力向上が必要である。そのためには、日々の授業や朝学習に対する姿勢など、学習の積み重ねが重要であり、ひいては大学進学や就職といった進路実現につながることを生徒に自覚させるとともに教員側も教科で工夫を重ね、家庭の協力をえて、自己学習のできるよう指導していかなければならない。

「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 69.3%（昨年度より -4.3 ポイント）となった。1 年生 74.5%、2 年生

62.8%、3年生 70.8%（昨年度は1年生 73.9%、2年生 69.9%、3年生 77.2%）となった。1年生は、昨年度より+0.6ポイント、2年生は-7.1ポイント、3年生は-6.4ポイントとなった。また、みやぎ学力状況調査の結果分析より、「ほとんどの授業が良く理解できる」「理解できる授業の方が多い」と回答したものは、昨年度の1年生から今年度の2年生にかけては、66.0%→55.1%（昨年度より-10.9ポイント）となった。改善傾向があるものの、学年進行でより学習が高度化していく中、授業が理解できず、家庭学習を含めた自己学習の意欲が低下している要因となっているのではないかと推察する。特に、数学や商業科目において、生徒が理解しにくくなっていることが予想されるので教員側が実態をよく理解し、授業の工夫や学習資料の充実をしていく必要があると考える。教員側も現職教育である「校内公開研究授業」の実施や、わかりやすい授業を目標とした教材研究等を通じ、今後も授業力向上を図り、生徒の学力向上に努めていかなければならないと考える。

保護者において、「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 86.3%（昨年度より-0.1ポイント）となった。1年生 89.3%、2年生 82.8%、3年生 86.6%（昨年度は1年生 86.3%、2年生 80.3%、3年生 92.9%）となった。残念ながら、どの学年においても生徒と保護者の差が大きい項目となった。上記に示したように学校公開や情報発信を適時に行うとともに更なる教員側の研鑽が必要となってきている。

「成績はどのように評価されるか知っている」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 86.3%（昨年度より-2.6ポイント）となった。学年別では1年生 90.4%、2年生 83.7%、3年生 84.8%（昨年度は1年生 85.7%、2年生 88.7%、3年生 92.6%）となった。1年生は新教育課程の実施に合わせて、観点別学習評価の記録を通知表に表示し、学習及び指導の改善に生かしている。学習内容の把握と観点別評価において、考査結果だけでなく、日々の授業の積み重ねが評価につながっていることを生徒が実感したものと推察できる。年度初めの最初の授業において、教科担任が学習の手引きを使って、学習内容や評価方法を説明したものの、まだ十分に理解していない生徒もいると推察される。今後もさらなる学習の評価について、観点別評価を深化させ、定着を図りたい。

4 生活意識

学校生活に関わる生徒への質問として、質問項目 1、2、4、9、10、11、12、13、14、17、18、が挙げられ、ほとんどが 90%以上の項目となっている。その中で、生徒質問項目 1【本校へ入学できて良かったと思う】91.5%。保護者も同様の質問項目【本校へ入学させて良かったと思う】98.8%となっていることから、生徒、保護者ともに学校生活に満足していると伺える。生徒質問項目 18【地域の清掃等のボランティア活動に参加している】31.2%（-10ポイント）となっているが、コロナ禍において、参加する機会がなかったのが要因である。次年度以降は、感染状況をみながら参加を促していきたい。

減少した項目の中で生徒質問項目 2【学校に行くのが楽しい】88.8%（-2.4ポイント）となっている。入学できて良かったと思う反面、質問項目 1とは 2.7ポイントの差が生じている。その要因を考えていく必要がある。

1つ目は、生徒質問項目 10【学校は、いろいろな問題を見逃さず対応してくれる】81.7%→69.1%（-12.6ポイント）となっており、前年よりもかなり減少している。「何らかの」問題をか

かえて言い出せない生徒が存在していると思われる。保護者の【学校は、生徒や保護者の相談に適切に応じていると思う】90.1%→88.3%(-1.8ポイント)となっていることから、さらなる生徒との関わり合いの中からの心の「悩み」を吸い上げる必要があるようだ。

2つ目は、生徒質問項目11【熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い】94.0%→92.4%(-18.4ポイント)となっている。部活動の活性化を目標にしている中で、生徒からこのような評価になっているのは改善しなければならない。生徒質問項目12【部活動は活発だと思う】97.5%→96.0%(-1.5ポイント)で、生徒質問項目4【部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んだ)】87.4%→81.6%(-5.8ポイント)と減少した。コロナ禍の中で、部活動の中断などもあり、生徒たちの部活動に対する意識の低下が表れている。本校校訓の「自立・友愛・創造」にもあるように、自ら考え行動する姿勢を身につけさせる必要があるのではないかと。

そのほかの項目について生徒質問項目13【学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫してある】83.1%→81.5%(-1.6ポイント)となり、今年度の行事についてもコロナ禍において工夫を強いられたが、生徒の意見も反映させるなど、もう少しできることはあったのではないと思う。保護者は、【学校行事(修学旅行・文化祭・競技大会など)は、適当であると思う】86.1%→93.6%(+7.5ポイント)となっており、特に文化祭において保護者に来校していただいた事が良かったと思う。なお、来年度に向けて行事の企画から見直しを図っていきたい。

生徒質問項目9【学校の生活指導(服装・頭髪・挨拶等)は理解できる】71.7%→71.2%(-0.5ポイント)で、保護者【学校の生活指導(服装・頭髪・挨拶等)は理解できる】88.7%→88.8%(+0.1ポイント)となっている。今年度、頭髪服装の規定の中で男子のツーブロックについて見直したが、生活指導の理解は深まっていない。ビジネススクールとして、社会人としてふさわしいマナーを身に付けさせたい。今まで以上に保護者・家庭との連携も大切にしたい。

最後に、保護者【本校の生徒は、挨拶などのマナーがよいと思う】95.6%→95.1%(-0.5ポイント)となっている。今年度「日本一の挨拶力」を掲げてきたが、減少していることが非常に残念である。目標に向かって、生徒のみならず我々教職員も今後の指導を考える必要がある。

5 進路意識

進路関係項目は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合が、生徒・保護者ともに2年生で低くなっている。進路希望調査の結果からみても「進路未定」の生徒が他学年よりも多く生徒と保護者が家庭でも進路について話題としていないことが考えられる。この理由としては、感染拡大防止の観点から保護者参加の進路行事を中止せざるを得なかったことも、少なからず影響しているものと思われる。実際に、3年生には進路ガイダンスの様子を動画配信したが、思うように視聴数が伸びなかったことを鑑み、今後は、コロナ禍における制限が緩和されてきたので、生徒・保護者ともに進路意識を高めてもらうよう保護者参加の進路ガイダンスを実施する。また、放課後を利用した学校説明会などを開催し、今後も生徒の高校卒業後の進路実現へ向けて、1年生の早い段階から進路意識の高揚を図るための具体的な指導に取り組むことを目標にし、進路情報的確な提示をする。そして、生徒の興味、関心を喚起し、自己理解を図り、それぞれの進路について真剣に考え行動できるような進路指導をすすめていきたい。

6 男女差の大きい項目について

生徒の回答で、男女間で最も大きな開きが見られた項目は、質問項目13「学校行事は、みんな

なが楽しく行えるよう工夫してある」で「よくあてはまる」は男子 47.9%、女子 30.5%であった。この項目については特に1・3年生の男女間の差が大きかった（3年生：男子 43.9%、女子 26.0% 1年生：男子 52.5%、女子 34.8%）。2年生では1・3年生より若干小さいが、男女間に大きな差（男子 46.1%、女子 31.2%）も見受けられた。この項目については、保護者の回答を見るとやはり3年生は男女間の差が大きかった（男子 56.2%、女子 31.0%）。1・2年生は大きな差は少なかった。当初の予定では生徒が楽しいと思う学校行事がすべて終えてから実施する予定だったが、コロナの関係で延期または中止などがあった。また文化祭についてはコロナ以前のような取り組みができず、規模縮小等があり、昨年度よりは緩和されたが、未だに制約があることが原因として考えられる。1年生では、ある程度学校生活の状況が安定してきたが、学校行事に関しては多くの経験をしていないため全体像が見えなかったと考えられる。そのためこのような結果に繋がったと思われる。しかし男女の差の発生については確たる原因を見出すことができなかった。

保護者の回答の中で注目されるは、例年取り上げられる質問項目3「子どもは、家庭学習を十分に行っていると思う」で、今年度は「よくあてはまる」は男子 12.2%、女子 14.7%で男女間の差は 2.5%、「ややあてはまる」は男子 26.3%、女子 38.2%で男女間の差は 11.9%であった。過去3年間と比較すると差は縮小しているが、いまだ男子についての家庭学習の取り組みについては低いままだ。他の質問項目で男女間の差が大きかったのは質問項目2「子供は、楽しく学校へ行っていると思う」の「よくあてはまる」で男子 66.1%、女子 50.7%で男女間の差は 15.4%であった。この質問項目では特に2・3年生の女子の回答が少なかった。やはり上記のコロナ関係が原因ではないかと考えられるが確たる原因を見出すことができなかった。今後、注視していかなければならないと思われる。

7 その他

全体を通してみると、生徒・保護者共に回収率が学年進行で下がる傾向がある。保護者の回収率が昨年度よりは上昇したが、回収率が70%を下回るクラスもあった。

卒業後の進路決定に際して、生徒・保護者・学校との関わり方が濃くなるはずであり、また、卒業後も「部活」や「担任」等に会いに来る生徒が多く存在する。それにもかかわらず、このような傾向にあることは、学校への関心や意識が薄れていっているのか、本調査に対しての期待感の薄れがあるのか、または、それ以外に理由があるのか定かではないが、今後の課題と言えそうである。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的なご意見やご要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、さらに充実した学校生活の構築に向け、教職員一同努力してまいりたい。今後も本校の更なる発展のために、忌憚のないご意見をいただきたい。